

京都世界遺産PBL科目

～世界遺産が学びのフィールド～構想趣旨

○ 社会情勢

予測困難な時代において想定外の事態に遭遇したときに問題発見・解決する能力が求められる(中教審)。

○ 単位互換科目の特色化(第4ステージプラン)

「大学コンソーシアム京都の単位互換科目」のメリットを生かした科目の開設

- ・専門分野にとらわれない「多角的視野の養成」
- ・「京都」という地域性を活かす
- ・正課科目を「インターカレッジ」で受講

etc...

そこで

京都の特色を活かした単位互換PBL授業

単位互換制度について

- **単位互換制度とは**

単位互換の協定を締結している大学間において、他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度

- **大学コンソーシアムの単位互換制度について**

コンソーシアム発足当初の1994年度から実施

今年度の単位互換協定加盟大学・短期大学数は48校
＜2014年度の実績＞

提供科目数: 516科目

出願者数: 延べ5,287名

受講者数: 延べ4,702名

世界遺産を対象としてPBLを展開する理由

人類共通の宝として現在、世界遺産は1007件あり、
条約締約国は191カ国。 ⇒ 京都は17社・寺・城

1. 多様性

「その国の文化として認められた普遍的価値」を持つ世界遺産。
他の文化的背景を学ぶことで多様性を理解することにつながる。

2. グローバルな視点・考え方

国際平和を追求し、国際的・人類的な課題を担う世界遺産。
教育資源として活用し、知性および精神性を学ぶ。

3. 日本の歴史・文化に関する深い教養

歴史的・文化的かつ学術的なフィールドである京都世界遺産。
日本にかかわる背景を学び、深い教養を身につける。

「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」との連携

文化遺産にかかわる若者の創出

年輩の方には京都文化への関心は深いが、比較的若者の知識・関心は低い。



京都全体でのアプローチ

1つの大学や組織でなく、京都全体で取り組みを行う必要がある。



京都世界遺産PBL科目の誕生

京都世界遺産PBL科目の概要

京都全体で学生を育て、明日を切り拓く人材を輩出

明日の京都
文化遺産プラットフォーム

- 講座寄付
- 世界遺産のフィールド提供



大学コンソーシアム京都
単位互換制度参加大学学生

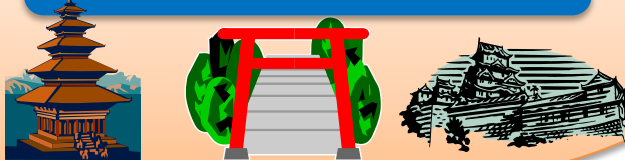
単位互換
授業参画

世界遺産
THE WORLD HERITAGE

学びのフィールド

単位互換
授業参画

京都の世界遺産の
課題を引き出し、解決策を提案



講座コンセプト

- 課題を引き出し、解決策を提示
- インターカレッジによる学び
- 単位互換、歴史・大学都市京都のメリットを最大限に活用
- 多様性の理解やその中の学びを通じ、社会で活躍できる人材を輩出

実施形態

- 4月・5月から12月の成果発表会（一部科目は1月）まで、年間通じて実施
- 各科目での個別授業と併せて、オリエンテーション、成果発表会等を、全科目合同で実施

授業運営支援

- 授業準備・運営に必要な費用に対し補助金を支給（上限20万円）
- PBLで学ぶ上で有益なスキル（インタビュー、プレゼン等）の習得のため、外部講師による講義を実施

2015年度京都世界遺産PBL科目 授業運営イメージ

授業内容

環境・状況理解

オリエンテーション
5月30日(土)

世界遺産関係者からフィールドの特徴と状況のお話を受け、世界遺産でPBLを行う意義を説明する。

講義
インタビュー前調査

インタビューに向けて課題の洗い出しを行う。同時にどのようにインタビューをしていくかを考えていく。

インタビュー
トレーニング

外部講師より、インタビューに必要な取材のスキルや、インタビュー内容のまとめなどのレクチャーを行う。

インタビュー

インタビュー前調査をもとに質問を行う。その中でどのような課題があるかについて探索を行う。

課題解決案の検証

課題解決案の検証

課題解決案についてシミュレーションをするなど、課題解決の精度の検証を行う。

プレゼンテーション
トレーニング①

理論やスキルを中心にプレゼンテーションの基礎を学習する。

中間発表
10月24日(土)

他グループの発表や世界遺産側からの意見を踏まえて新たな課題や視点等を発見する。

解決案の改良

中間発表で出された新たな課題をもとに解決案のブラッシュアップを行う。

プレゼンテーション
準備
(プレゼンテーション
トレーニング②)

トレーニングでは、学生が実際にプレゼンテーションを行い、改善点を確認する。

成果発表会
12月5日(土)

学習成果について発表を行う。評価委員を設置して評価を行い、最優秀グループは表彰を行う。

まとめ

プレゼンテーション及びこれまでの学習に対してのフィードバックを行う。

発表／まとめ

課題探索

調査
フィールドワーク

実際に社寺域に訪問し、課題に関わる対象やニーズなどの調査を行う。

課題解決案の提示

調査結果をもとにグループで解決案を考える。

京都世界遺産PBL科目の活動・成果報告について

京都世界遺産PBL科目の活動報告

①特設Webページでの活動報告の発信

http://www.consortium.or.jp/special/wch_PBL/

授業レポートを科目ごとに順次発信

②中間発表・成果発表会での活動報告

中間発表：10月24日（土）、成果発表会：12月5日（土）

世界遺産所有者を招待して実施

③活動報告書の作成

作成した報告書は財団Webページで公開予定

京都世界遺産PBL科目

2015年度 世界遺産PBL科目受講者数

提携先世界遺産	科目名	科目開設大学	担当者	受講者数	うち、単位 互換生数
上賀茂神社	京都の世界遺産PBL ～上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する～	京都産業大学	若松 正志	12	5
東寺	保存科学入門「東寺」絵巻を作る	京都市立芸術大学	宇野 茂男	7	3
醍醐寺	遺産情報演習 I (b) ～世界遺産醍醐寺プロジェクト活動をパブリック化する試み～	京都橘大学	一瀬 和夫	6	0
二条城	世界遺産PBL講座 ～O2Oマーケティングによる地域活性化	同志社大学	多田 実	20	11
清水寺	特殊講義 I「京都有名寺社城の境内の見どころを巡るバリアフ リー動線の提案」／T	立命館大学	宗本 晋作	18	7
仁和寺	政策科学特別実習1「京都の世界遺産 仁和寺」／PD	立命館大学	桜井 政成	11	3
醍醐寺	コミュニティマネジメント特論 ：世界遺産と学ぶ課題発見・解決過程	龍谷大学	笠井 賢紀	11	5
合 計				85	34

「京都世界遺産 PBL 科目」に係る明日の京都 文化遺産プラットフォームとの連携に関する協定書の締結について

1. 概要

2015 年度から、単位互換で新たに取り組む「京都世界遺産 PBL」科目について、その運営にあたり、「明日の京都 文化遺産プラットフォーム」と連携することは運営委員会においても報告しているが、今回改めて連携に関する協定書の締結を上記のとおり行ったことを報告する。

また、協定についてはプレスリリースを行い、財団の活動について社会へ広く P R を行った。

< 協定式について >

日 程 2015 年 5 月 30 日（土）12 時 00 分～12 時 45 分

会 場 キャンパスプラザ京都 2 階ホール

出席者 赤松 徹眞 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 理事長

松浦晃一郎 明日の京都 文化遺産プラットフォーム会長・前ユネスコ事務局長

山田 啓二 京都府知事

門川 大作 京都市長

有馬 頼底 京都仏教会理事長、臨済宗相国寺派管長

田中安比呂 賀茂別雷神社（上賀茂神社）宮司

内 容 < 協定の内容について >

別紙「公益財団法人大学コンソーシアム京都と明日の京都 文化遺産プラットフォームとの連携に関する協定書」（稟議処理 5/26 決裁）のとおり。

協定式の様子



協定締結の記者会見する赤松理事長（右から 3 人目）



協定書に署名し記念撮影におさまる赤松理事長ら

< 当日の取材 > 朝日新聞、京都新聞、毎日新聞、中外日報、毎日放送（MBS）

※朝日新聞、京都新聞、毎日新聞の記事は添付資料参照

以 上